

○『見落としやすい、見つけにくい（起こりやすい）性的言動』と対応、発見するための工夫

場面	起こりやすい言動（頻発）	発見するための工夫
自由時間	<ul style="list-style-type: none"> ・女性職員にベタベタする。若い男性職員をみてテンションが上がる。 ・男女の別なく職員の手や顔等を舐める。 ・性的な描写を伴うお絵かきをする。 ・卑猥な言葉を言ったり、卑猥な替え歌を歌う。 ・セクシーなダンスをする。 ・プライベートゾーンに接触するプロレスごっこや身体接触の遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無差別的愛着の側面もあるが、職員に対する接触の仕方を細かく観察する必要がある。 ・軽微なものと思われても不適切であること伝え、他のスタッフに報告し、記録に残す。
居室内	<ul style="list-style-type: none"> ・性的な遊び（身体接触を伴うお医者さんごっこ）。 ・下着姿になって遊ぶ。 ・自分の裸を鏡でみる。 ・プライベートゾーンを自分で触る（見えるところで）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不自然に居室にこもる等、普段との行動の差に気を配る。 ・布団を使った遊びに注意する。 ・職員の動向を気にする時は、注意する。
テレビ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の水着姿や男性の裸を見てテンションが上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミック、雑誌の性的描写への過度な関心にも注意を払う。
インターネット・携帯電話	<ul style="list-style-type: none"> ・性的な事柄について発言の増加、年齢不相应な性的な知識や言葉遣いが増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用状況（料金、ネット接続、頻度等）を頻繁に確認する。 ・フィルターをかける。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・性的な言葉を言ってふざける。 ・裸になってテンションをあげてふざける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服を脱ぐことが、引き金になる場合があることを意識しておく。
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレに複数の児童で一緒に行き、性器の見せ合いや性器を触らせる等の行動が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の児童でトイレに行く、頻繁にトイレに行くことなどに注意しておく。 ・トイレに一人で行くことをこわがる。 ・夜尿・遺尿のある子どもの中には、性暴力被害を受けている場合があるので注意しておく。
就寝前	<ul style="list-style-type: none"> ・着替える時に下着姿や裸のままふざける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害体験のある子どもは夜間テンションがあがりやすいことを意識する。

入園時に情報がなく、明らかな症状や問題がない子どもたちについても、見落としやすい症状・行動（外傷性性的行動化）をキャッチする感度をあげることで、早期の支援に繋げることができます。

○性的被害の状況が本人の口から明らかになるまで、1年近くかかることは珍しくありません。性的言動が繰り返しみられていてもその都度の注意で終わっていた等、早期に介入できない要因としていくつか考えられます。

- ①職員全体が外傷性性的行動化や正常な性的発達の知識を十分に持っていない。
- ②性被害を受けた子どもや発達障がいの子どもの先導された誤学習と思い込んでしまう。
- ③軽微なものも記録はしているが、性的言動（外傷性性的行動化の疑い）として分類し、ケース毎に整理することが不徹底なため、時系列で行動の意味を見直すことができにくい。
- ④職員自身が性的な問題を扱うことに不安を感じる。

○一方、時間がかかっても、性的被害について子どもたちから職員に話をすることができる要因として、安全・安心な環境の下で職員との間で形成される信頼関係が重要と思われます。

○見落とししやすい症状・行動をキャッチする感度をあげるためのヒント

- ①職員全体が、外傷性性的行動化や正常な性の発達についての知識を学びアンテナを高くする。
- ②性虐待のケースは、一定期間の安全・安心が保証され、実感された後に、外傷性性的行動化、心身症状が出現することが多いことを意識しておく。
- ③ふざけているように見えても、外傷性性的行動化の視点から観察し、必要に応じて介入を行う。介入にあたっては個別に話を聞き、指導的な態度は控え、被害経験の確認や被害にまつわる思考・感情・身体感覚等について詳しくインタビューする。
- ④児童全体に性に関する心理教育を実施することにより、被害や目撃の訴えがしやすい雰囲気を作る。
- ⑤前日の宿直勤務者による申し送りの場を有効活用し、なるべく多くの職員が参加して児童の表れを多角的に検討する場にする。
- ⑥行動記録の中で、性的言動や性的逸脱についてすぐに集計できるようマークをつける等して、定期的に児童の性に関する言動を職員が振り返れるようにする。
- ⑦子どもの性的な行動について職員間でオープンに話題にすること、職員自身が性的話題と向き合うことの必要性を認識する。

Q20 性的虐待を受けた子は解離するって聞いたのですが、“解離”って何ですか？もしも子どもが解離の状態になった時には、どうしてあげればいいですか？

心的外傷（トラウマ）を受けた後の反応として、1 過覚醒、2 狭窄、3 解離、4 無力感が挙げられます。

その中の“解離”は、きわめて深刻な心的外傷を負った時、心の一部を麻痺させることにより、それをやり過ごそうとする心の対処法です。意識や記憶、知覚といった通常は一貫性をもって体験されているものが、まとまりをなくした状態を“解離”といいます。

たとえば、目の前で起きていることに実感が湧かない、恐怖や悲しみなどの感情が麻痺してしまう、記憶の一部を喪失してしまうというようなことがあります。性的虐待など非常に深刻な心的外傷を受けた子どもの中には、解離症状を起こす子どもが多いのです。

解離の最も穏やかな形は夢心地状態であり、例えば、物をどこかに置いたはずなのに、それがどこだったか思い出せないというものです。このような穏やかな解離は、私たちもよく経験しますね。逆に、解離が深刻な場合には、解離性同一性障害になることもあります。

実際、児童福祉施設に入所している子どもたちの行動をよく観察してみてください。次に挙げられ

る項目に当てはまる子どもはいませんか？

- ・ 会話の最中にぼんやりしている。
- ・ ポーっとしている。
- ・ 口をあけてじっとしている。
- ・ 伝えたはずのことをよく忘れる。
- ・ 物忘れが多い。
- ・ 嘘をつく。
- ・ 動きが緩慢になる。
- ・ よく居眠りをする。

このような状態は、注意を払わないと、見過ごされてしまい、やる気がない・なまけていると誤った判断して、叱ってしまうことがあります。気を付けましょう。

解離症状が起こっている時、子どもたちの意識や記憶は、「今、ここ」から離れて、過去に起こった怖かった出来事や、その時に感じた辛い、あるいは痛い感覚をまさに感じていると考えられます。このような場合、そのまま会話や活動を続けるのではなく、現実に戻して、「今、ここ」でのやり取りをしていくことが大切になります。

- ・ 「おい！」と呼びかけて意識をもどす。目の前で手を振って見せてあげる。
- ・ 「今、何時？」「今日、何日だっけ？」と聞き、現在を意識させる。
- ・ 「先生の服、何色？」と目の前にあるものを認知させる。

このように、叱ったりせずに、子どもを過去の記憶から現実に戻し、「今、ここ」は安心できる場であることを伝え、過去の記憶を再構成させることが必要です。

解離症状が疑われる子どもに対しては、施設内で関わる大人が丁寧な対応・観察をすると共に、心理士や精神科医などに相談して支援するようにしましょう。

参 考 資 料

●性虐待・性被害について

- ・「性虐待を生きる力に変えて」シリーズ グループウィズネス編 明石書店
 - 『性虐待を生きる力に変えて①親と教師のためのガイド』
 - 『性虐待を生きる力に変えて②小さな女の子・男の子のためのガイド』
 - 『性虐待を生きる力に変えて③10代の少女のためのガイド』
 - 『性虐待を生きる力に変えて④子どものところに性虐待を受けた女性のためのガイド』
 - 『性虐待を生きる力に変えて⑤子どもに性虐待を受けた人のパートナーのためのガイド』
 - 『性虐待を生きる力に変えて⑥性暴力を生き抜いた少年と男性の癒しのガイド』
- ・『ライオンさんにはなそう』パトリシア・キーホー著 キャロル・ディーチ絵 田上登紀子訳 木犀社
- ・『男の子を性被害から守る本』J. サツオー、R. ラッセル、P. ブラッドウェイ著 三輪妙子訳 築地書館

●性加害について

- ・「性問題行動・性犯罪の治療教育」シリーズ ティモシー・J・カーン著 藤岡淳子監訳 誠信書房
 - 『回復への道のり—親ガイド—』
 - 『回復への道のり—パスウェイズ—』
 - 『回復への道のり—ロードマップ—』
- ・『性問題行動のある知的障害者のための16ステップ —フットプリント—』
クリシャン・ハンセン、ティモシー・カーン著 本多隆司・伊庭千恵監訳 明石書店

●性被害についての子ども向け絵本

- ・『気持ちの本』森田ゆり著 たくさんの子どもたち絵 童話館出版
- ・『だいじょうぶの絵本1 あなたはちっともわるくない』安藤由紀著 岩崎書店
- ・『だいじょうぶの絵本2 いいタッチわるいタッチ』安藤由紀著 岩崎書店
- ・『だいじょうぶの絵本3 わたしがすき』安藤由紀著 岩崎書店
- ・『性暴力被害をはねかえす絵本1 いや!というのはどんなとき?』北沢杏子著 長谷川瑞吉絵 アーニ出版
- ・『性暴力被害をはねかえす絵本3 わたしのからだはわたしのもの』リンダ・ウォルヴァード・ジラード著
北沢杏子、中西理彦訳 今井由美子絵 アーニ出版
- ・『とにかくさげんでにげるんだ—わるい人から身をまもる本』ベティー・ボガホールド著 安藤由紀訳
河原まり子絵 岩崎書店
- ・『あなたが守る あなたの心・あなたのからだ』森田ゆり著 平野恵理子絵 童話館出版
- ・「ノー! といおうシリーズ」
 - 『こんなときはノー! といおう』オーラリー・ワッチャー文 ジューン・アーロン絵
北沢杏子、染嶋いずみ訳 アーニ出版
 - 『ママにも言えなかった…』ミカエル・ルンドグレン文 ウルフ・グスタフソン絵
北沢杏子、はまこペーション訳 アーニ出版
- ・『じぶんでじぶんをまもろう③「いや!」というよ!—性ぼうりよく・ぎゃくたいにあわない—』
嶋崎政男監修 すみもとななみ絵 あかね書房

●症状や対応について

- ・『PTSDとトラウマのすべてがわかる本』飛鳥井望監修 講談社健康ライブラリーイラスト版
- ・『リストカット・自傷行為のことがよくわかる本』林直樹監修 講談社健康ライブラリーイラスト版

●性教育実施の際の参考文献

- ・『12歳になったら読む本「女の子のころとからだ」』丸本百合子著 ゆうエージェンシー発行 成美堂出版
- ・『ティーンズNOTE 10代の性のために』林 知恵子・石川英二共著 ティーンズ・ライブラリー編
神戸新聞総合出版センター
- ・『イラスト版 10歳からの性教育 子どもとマスターする51の性のしくみと命のだいじ』高柳美知子編
“人間と性”教育研究所著 合同出版株式会社
- ・『命の大切さを学ぶ性教育』上田 基編著 ミネルヴァ書房
- ・『卵子の話』浅田義正著 シオン
- ・『娘に伝えたい「ティーンズの生理&からだ&ココロの本」』対馬ルリ子、種部恭子、吉野一枝著
かもがわ出版
- ・『新版「さらば、悲しみの性」高校生の性を考える』河野美代子著 集英社
- ・『暴力防止の4つの力 ワークで学ぶ子どものエンパワメント』
田上時子、NPO法人女性と子どものエンパワメント関西編著 解放出版社
- ・『自立生活ハンドブック⑩性・say・生』全日本手をつなぐ育成会（全日本手をつなぐ育成会HPで販売）
- ・『エイズ予防週間リーフレット「Living Together ～いま、何をすれば良いのか聴かせて？～」』
エイズ予防週間実行委員会
- ・『メグさんの女の子・男の子からだBOOK』メグ・ヒックリング著 三輪妙子訳 築地書館
- ・『メグさんの男の子のからだところQ&A』メグ・ヒックリング著 三輪妙子訳 築地書館
- ・『人間って、ふしぎだな 新編新しいほけん 3・4年 5・6年』（小学校の教科書）東京書籍
- ・『新版 中学校 保健体育』（中学校の教科書）大日本図書
- ・『あそびのおうさまずかんシリーズ①「からだ」』保志 宏監修 学習研究社
- ・『ジュニア学研の図鑑6「人のからだ」』学習研究社
- ・『知の森絵本 いのちってスゴイ！赤ちゃん誕生 おなかのなかのドラマと生きる力』
大葉ナナコ著 素朴社
- ・『おかあさんとみる性の本』シリーズ 山本直英監修
『ぼくのはなし』和歌山静子著 童心社
『わたしのはなし』山本直英、和歌山静子著 童心社
『ふたりのはなし』山本直英著 和歌山静子絵 童心社
- ・『せっくすのえほん』みずのつきこ著 やまもとなおひで監修 子どもの未来社
- ・『おちんちんの話』やまもとなおひで著 ありたのぶや絵 子どもの未来社
- ・『マンガおれたちロケット少年（ボーイズ）』手丸かのこ著 金子由美子解説 子どもの未来社
- ・『男の子用ワークブック カッコいい男性になるための10+αの大人ルール』
NPO法人アスペ・エルデの会サポートブック（NPO法人アスペ・エルデの会HPで販売）
- ・『女の子用ワークブック おとなになる女の子たちへ』
NPO法人アスペ・エルデの会サポートブック（NPO法人アスペ・エルデの会HPで販売）

●日常的な対応について

- ・『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著 のぐちふみこイラスト 明石書店
- ・『発達障害の子の育て方がわかる！ペアレント・トレーニング』上林靖子編
講談社健康ライブラリースペシャル
- ・『自分の怒りをしずめようー子どものためのアンガー・マネージメント・ガイド』ジェリー・ワイルド著
ふじわらひろこイラスト 鈴木俊介訳 東京書籍
- ・『みんなのためのルールブック』ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社
- ・『怒りのコントロール (10代のメンタルヘルス)』 ジュディス・ピーコック著
上田勢子、汐見稔幸、田中千穂子訳 大月書店
- ・『ストレスのコントロール (10代のメンタルヘルス)』 スーザン・R・グレッグソン著 田中千穂子監修
上田勢子、汐見稔幸訳 大月書店
- ・『子どもの認知行動療法 イラスト版1~6』 ドーン・ヒューブナー著 ポニーマシューズ絵 上田勢子訳
明石書店
- ・『ワークブック おこりんぼうさんとつきあう25の方法』
ワーウィック・パドニー、エレーン・ホワイトハウス著 藤田悦子訳 明石書店

●市販されていないもの

- ・パンフレット『家庭内性暴力被害を受けた子どもを守るために あなたへのメッセージ』
『あなたへのメッセージ 親だからできること』
厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「子供への性的虐待の予防・対応・ケアに関する研究：児童相談所における性的虐待対応ガイドラインの策定に関する研究（研究分担者山本恒雄）により作成
- ・パンフレット『性的虐待から回復するために～親が子どものためにできること～』
大阪府子ども家庭センター作成
- ・パンフレット『親だからできること～子どもの性的虐待がわかってから～』神奈川県児童相談所作成
- ・リーフレット『はなしてくれてありがとう』平成21年度文部科学省科学研究費補助金「子供の性暴力被害の影響と加害少年への教育的取り組み」（研究代表者野坂祐子：大阪教育大学）により作成

●暴力防止プログラム問い合わせ先

- ・GAP(子どもへの暴力防止プログラム)
NPO 法人 GAP センターJAPAN
〒662-0825 兵庫県西宮市門戸荘17-34 スマイルヴィラ 105
TEL: (0798) 57-4121 FAX: (0798) 57-4122
<http://www.cap-j.net>
- ・セカンド・ステップ(子どもが加害者にならないためのプログラム)
NPO 法人日本子どものための委員会
〒156-0043 東京都世田谷区松原5-2-6-3E
TEL: 03-5329-1461 FAX: 03-5329-1491
<http://www.cfc-j.org>

子どもを理解するためのアセスメントツール

子どもの発達や行動・情緒等に関するアセスメントツールは以下のとおりである。日常的な支援を行う者が、外部からの観察によって簡便に記入できるものを中心に掲載している（一部、子ども、家族が直接記入するものも含んでいる）。

種別	検査名	内 容
発達	KIDS 乳幼児発達スケール タイプ A、B、C、T	1. 運動 2. 操作 3. 理解言語 4. 表出言語 5. 概念 6. 対子ども社会性 7. 対成人社会性 8. しつけ 9. 食事
	S-M生活能力検査（1～13歳）	1. 身辺自立 2. 移動 3. 作業 4. 意志交換 5. 集団参加 6. 自己統制
	グッドイナフ人物画知能検査（3～10歳）	被験者が描いた人物画の発達的特徴の通過率を見て発達を評価
情緒 / 行動	ASEMBA ・ CBCL (Child Behavior Checklist) ・ YSR (Youth-Self Report) ・ TRF (Teacher's Rating Form)	内向尺度（ひきこもり、不安抑うつ、身体的訴え）外向尺度（非行的行動、攻撃的行動）、社会性の問題、思考の問題、注意の問題
	虐待を受けた子どもの行動チェックリスト： ACBL-R (Abused Children's behavior Checklist-Revised)	虐待的人間関係の再現性、力による対人関係、自信の欠如、注意/多動の問題、学校不適応、感情の抑制/抑圧、性的逸脱行動、希死念慮/自傷性、反社会的行動、食物固執、感情調整障害
	日本版 TSCC (子ども用トラウマ症状チェックリスト： Trauma Symptom Checklist for Children)： 8～16歳 ※ TSCC-A (性に関する質問を除外)	臨床尺度（不安尺度、抑うつ尺度、怒り尺度、外傷後ストレス尺度、解離尺度）、妥当性尺度（過少反応尺度、過剰反応尺度）
性	J-SOAP-II (The Juvenile Sex Offender Assessment Protocol-II)	少年である性暴力者のリスクを評価 固定的リスク（性欲動・関心・行動の偏向尺度、衝動的・反社会的行動尺度）、可変的リスク（治療的介入尺度、社会内の安定性・適応尺度）
	CSBI (Child Sexual Behavior Inventory)	境界の問題、性的関心など 38 項目 ・ 一般的に発達上見られる外傷性性的行動化 ・ 性的虐待を受けた子どもに特徴的な外傷性性的行動化

種別	検査名	内 容
家族	家庭復帰の適否を判断するためのチェックリスト（厚生労働省）	経過、「子ども」、「保護者」、「家庭環境」、「地域」の観点から、4段階で評価。
	FDT親父関係診断テスト（Family Diagnostic Test）：子ども用（小4～高校）、親用	子ども8尺度（被拒絶感、積極的回避、心理的侵入、厳しいしつけ、両親間不一致、達成要求、被受容感、情緒的接近）、親7尺度（無関心、養育不安、夫婦間不一致、厳しいしつけ、達成要求、不介入、基本的受容）
	その他、親子関係をアセスメントするためのツール：TK式診断的新親子関係検査（小中）、CCP親子関係診断検査（小2～中）、PCR親子関係検査（小2～中3：A型、B型、C型）	
進路 / 職 業	職業レディネステスト 中学生版	A検査（職業興味）、B検査（基礎的志向性）、C検査（職務遂行の自信度）

「性的虐待を受けた子どもへのケア・ガイドライン」作成委員会

<編著者> 岡本正子 大阪教育大学教育学部
八木修司 関西福祉大学社会福祉学部
伊庭千恵 大阪府子ども家庭センター
高田豊司 児童養護施設広畑学園
中村有生 情緒障害児短期治療施設清水が丘学園
新美裕之 情緒障害児短期治療施設あゆみの丘
前河 桜 大阪府子ども家庭センター
薬師寺順子 大阪府福祉部
渡邊治子 大阪府子ども家庭センター

<著者> 井上直子 堺市子ども相談所
岩清水伴美 聖隷クリストファー大学
久保田富紀 大阪府子ども家庭センター
小杉 恵 大阪府立母子保健総合医療センター
塩見 守 情緒障害児短期治療施設清水が丘学園
永井 享 情緒障害児短期治療施設希望の社
中垣真通 静岡県富士児童相談所
原田旬哉 児童養護施設子供の家
林めぐみ 大阪府子ども家庭センター
樋口純一郎 神戸市こども家庭センター
平岡篤武 静岡県健康福祉部
万代ツルエ 神戸大学附属病院小児科
三浦由起 大阪府子ども家庭センター
南まどか 大阪府子ども家庭センター
山野泰弘 情緒障害児短期治療施設希望の社
渡辺葉一 児童養護施設あおぞら

<作成協力者> 坂井加代子 児童養護施設高鷲学園
西本美保 大阪府子ども家庭センター
花房昌美 大阪府子ども家庭センター
藤原慶二 関西福祉大学社会福祉学部
榎本理香 児童養護施設遙学園
松本佳奈 堺市子ども相談所
丸山恭子 カウンセリングルームまるやま
三宅和佳子 大阪府子ども家庭センター
三好真由美 児童養護施設清心寮
山本恒雄 日本子ども家庭総合研究所

(五十音順)

